

## ASEAN グローバルプログラム に参加して

廣田 翔吾  
Shogo HIROTA  
物質化学科 2年

### 1. はじめに

2017年8月29日から同年9月7日までの10日間ベトナム ハノイ及びシンガポールにおいて ASEAN グローバルプログラムに参加した。今回の研修は、ベトナムでの企業訪問、現地学生とのPBL、及び、シンガポールでの Nanyang Technological University (以下 NTU) 訪問、ビジネスパーソンの方との交流会そして、加藤順彦氏による講演会といった内容が主であった。

ベトナムでの PBL や企業訪問も非常に多いプログラムであったが、本報告書では主にシンガポールでの研修内容を中心に報告する。

### 2. 参加の目的

私は今回の研修に主に2つの目的を持って臨んだ。

1つ目は『海外で働くということを知る』ということである。ここ数年グローバル化が世の中で謳われている中で、私自身も海外で働くということに興味を持ったので実際に海外で働いている日本人はどのような人なのか、そしてまた、世界で求められるのはどのような人なのかということ自分の目と耳で確かめたいと思っていたからだ。

2つ目は『英語でのコミュニケーションスキルを向上させる』ということである。やはり海外で働くうえで英語でのコミュニケーションは必ず必要なので、その第一歩として、挑戦、向上させたいという思いがあった。

### 3. NTU 訪問

私たちはシンガポールに到着した翌日に NTU を

訪問し、キャンパス内の散策、実際の講義受講、研究室訪問、学生交流を行った。

敷地面積約 200 ヘクタールという世界最大級のキャンパスを限られた時間で回りきることは不可能であったが、それでも私にとっては刺激的な光景が広がっていた。様々な人種の方が入り混じって英語でコミュニケーションをとっている姿から、私は改めて英語の重要性とすばらしさを感じた。講義はスライドでイラストを使用しながらすべて英語で行われていた。講義を受けて私が一番驚いたのは講義時間が日本の 90 分と比べて短かったことだ。教授によって多少の時間の短縮はあるかもしれないが、私の受けた講義は1時間もなく、人の集中力の持続時間を考えるとこれは非常に効率がよいと感じた。

研究室訪問では主に機械工学と航空宇宙工学の研究室を訪問させて頂いた。機械工学の分野では 3D プリンターを使用して制作した部品を用いてのエコカー開発などの説明をして頂いた。また航空宇宙工学の分野では Air Traffic Management Research Institute (ATMRI) とよばれる研究所での最先端の航空交通管理技術や研究について説明して頂いた。

どの研究もそのレベルに高さに衝撃を受けた。学生交流では NTU の学生の方から彼らの専門分野の説明を受け、私たちからは代表者 8 名による学校説明を行ったが、時間の関係もあり、あまり交流出来なかったことが残念であった。

### 4. 英語での交流

PBL でベトナムの学生と一つの目的のために英語でコミュニケーションをとったり、英語で講義を受けたり、またホテルやお店でも英語でやり取りをしたりと、自身の英語力の現実を知ったり、教科書でなく生の英語に触れられるとても充実した日々であった。特に PBL では複雑な内容や、こちらの意図を英語でベトナム人の方に伝えることが多かったため、とても大変であった。しかし、英語が苦手だからといって、話し合いへの参加を躊躇していると置いて行かれてしまい、ますます参加しづらくなる

ので、自ら発言する主体性が大事だと感じた。これは、企業訪問させていただいた時にも自ら動くことが大事とおっしゃっていたので、このあたりで日本との違いを強く感じた。

## 5. ビジネスパーソンの方との交流会及び講演会

シンガポールで働いているビジネスパーソンの方からは、海外を意識するようになった理由や、海外で働くようになったきっかけなどを中心に交流会でお話を聞かせて頂いた。皆さん海外で働くようになったきっかけは自分でビジネスを始めたり、偶然働いていた企業が海外進出するに伴ってなど様々であったが、海外を意識するようになったきっかけは学生時代の留学や、海外経験の影響が強いように感じた。またビジネスパーソンの方の中に龍谷大学出身の方がおられたので、より身近な話を聞くことができた。交流会は少人数で行われ、過度な緊張はせずにリラックスして交流することができ、積極的に質問して聞きたいことを聞くことができた。そうした交流会の中で、私は、皆さんがやりたいこと、今後のビジョンをはっきりと持っておられることに感銘を受けた。

さらに加藤氏による講演会では、日本の産業の現状及び未来とともに、東南アジアの産業の現状及び未来について聴け、アジアに進出するべき理由を教わった。今回の交流会及び講演会は自分の将来について深く考えさせられ、そのために今すべきこと、将来についてのアドバイスを頂いたり、とても有意義な時間を過ごすことができた。

## 6. 研修を通して

今回の研修を通して、日本で学生生活をしているだけでは得られない経験をたくさんさせて頂いた。最初に掲げた『海外で働くということを知る』という目的より、世界で求められている人材とは、異文化を尊重できることはもちろん、将来のビジョンをはっきりと持ち主体的に動ける人なのだと感じた。これは日本でも大事なことであるが、このことをより強く感じた10日間であった。そして英語力を含め自分の未熟さを痛感した10日間でもあり自分のことを見直し将来を考える良いきっかけとなった。また、私は今回の研修で、人とのつながりや異文化の人々との交流に、今まで以上に関心を持つと同時に自分の人生はまだまだ貧相なものであると感じた。研修内容には沿っていないかもしれないが、私の中でこの変化は今回の研修での一番の収穫となったかもしれない。いろんな国のまだ見たことのない世界を知り、いろんな価値観にふれることで人生はより豊かになる、豊かにしたいとそう思えることができた。

## 7. おわりに

将来の仕事のことだけでなく人生観も見直すことができた ASEAN グローバルプログラムで得られた経験は、私にとってかけがえのないものとなった。このような貴重な経験をする機会を与えてくださった本プログラムに関わる全ての皆様にご場をお借りして心より御礼申し上げます。